

## 令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

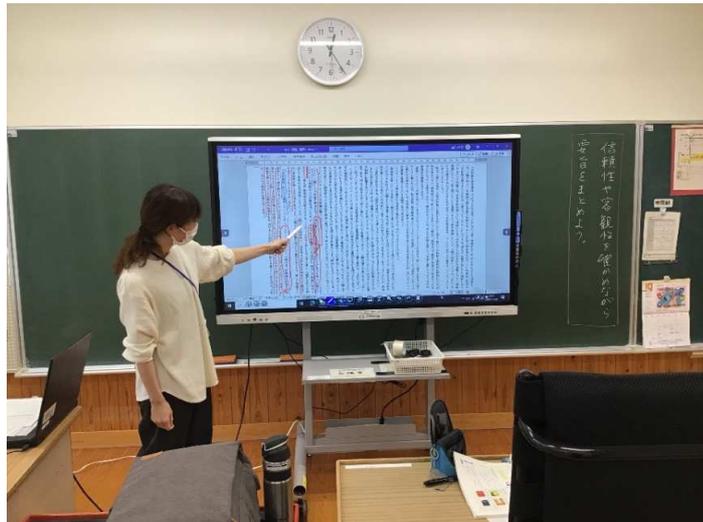
P T A名	静岡県立西部特別支援学校 P T A			
学 校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱		
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部		
	全校児童・生徒数	138人(令和6年5月1日)		

### 1. 使用状況

寄贈物品名	電子黒板（ディスプレイ型）
使用学年及び人数	中学部1, 2, 3年   28人
使用頻度	始業式や終業式など行事の日を除いてほぼ毎日
使用状況	<p>&lt;各教科での活用&gt; 主に国語、数学、外国語、体育、美術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国語・数学・外国語:教科書や教材のデータを電子黒板に投影し、教師が書き込みながら解説した。</li> <li>・ 体育:オリンピックの開催地の特徴を調べるために、世界地図に書き込み地図を提示した。</li> <li>・ 美術:板書機能を活用し、生徒が手で模様を描き、トートバッグのデザインを作成した。</li> </ul>
物品の使用による変化や効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電子黒板は、インターネットに接続可能な端末のため、追加で必要な資料をすぐに用意することができる。また、その資料に直接書き込むことができ、生徒の理解を促す解説をすることができた。</li> <li>・ タッチモニターの画面が複数箇所同時に反応するため、手の操作に困難がある生徒でも、画面に触れたら、絵を書いたり、模様を描いたりすることができた。</li> </ul>
今後の活用の見通しや課題	<p>一部の教師が活用するだけでなく、さらに多くの教師が日常的に活用できると良い。そのためには、モニターにはない電子黒板ならではの機能を知ってもらい、使い慣れてもらう必要がある。多数ある機能の中から、目的に合わせて最適な機能を選択できると、さらに学習効果は高まると考える。</p> <p>本校では、Googleアカウントを利用し、各教科の学習を行う機会が多い。生徒のGoogleアカウントで電子黒板にアクセスし、学習記録などを蓄積できるようになるとよい。</p>
その他希望や所感など	素晴らしい機器を寄贈していただきありがとうございます。子供たちがより効果的に学び続けられるよう、校内での活用を広めていきたいと思っております。

## 2. 活用の様子

○国語(文章に線を引きながら解説している。)



○数学(表に線を書き込んで解説している。)



○美術(右手でイラストを描いている。)

